

お家の方の顔が浮かぶために

「義務教育は地域に根差した教育が大切です。そのためには、その地域に住み、お家の方々とじっくりお話しし、学校でその子の顔を見た時に、その後ろにお家の方の顔が浮かぶようではなくてはなりません。」「子どもがどんな環境に住み、どんな道路を歩いて学校に来ているのか、実際に行ってみなければ分からないことがたくさんあるはずですよ！」今は既に亡くなっている元上司から、飲んだ際にいつも聞かされていた言葉です。

春から六ヶ所に住むようになり、毎朝新聞をコンビニまで歩いて買いに行っています。約30分～40分のウォーキングコースですが、車で通るのとは違い様々な発見があるものです。「こんな所にこんな花が咲くのか」「ここの桜は遅咲きなんだなあ」「こんな所に素敵な家があるなあ」「このブナの木は何年物かなあ」歩いているからこそ見えてくるもの、発見、疑問があるのかもしれない。

車社会の発達や家庭の生活様式の変化により、地域をゆっくり歩く機会がめっきり減った気がします。学校では様々な仕事が重なり、教員の多忙感はなかなか解消されません。生徒一人一台タブレットも、活用方法を学び試行錯誤することに多くの時間を費やしています。

ICTを活用することが、ますます子ども達の学びの場を広げ、教員の仕事を減らし、子ども達にしっかり向き合う時間を確保する事となり、先生方が「子どもの後ろにお家の方の顔が浮かぶ」ことにつながればと思っています。

(9月10日更新)